

(様式6-1)事後評価シート

番号	12	事業名	県営中山間総合整備事業		市町村名	飯山市、中野市(豊田)、木島平村				路河川名	箇所名(ふりがな)	菜の花2期(なのはなにき)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>本地域は豪雪地帯であり、水田単作農業の比重が高いが、地域によっては畑や果樹栽培も行われており、収益性の高い作物への転換が徐々に進められてきたが、経済的、地形的要因から、若年層の人口流出、高齢化による労働力不足、地域社会・集落の機能低下等の課題を抱えていた。 このようなか、平成9年度開通の飯山豊田インターを核として、3市村が連携して農業や観光の振興による地域の活性化を図るため、本事業が計画された。</p>										②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価		
												用水路の改修に伴い、希少種の生息が確認され、自然環境に配慮した整備が実施された。地元では、こうした環境を「大事にしなければ」「きれいにしなければ」との意識が高まった。	B		
事業目的	<p>生産基盤の整備により、3市村の特徴ある農産物(飯山市:アスパラや菌茸類、木島平村:米や酒米、中野市(豊田):リンゴ等)を振興する。また生活環境の整備を通して、自然と生活文化の調和の取れた住みやすい地域づくりを図るとともに、グリーンツーリズムによる「農業体験のできる滞在型の観光地」を目指し、地域の活性化を図る。</p>										③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価		
												農道、用排水路等の生産基盤施設は、地元農家により適切に維持管理されており、また農村公園については地元区や第三セクターに管理委託され、適切に管理されている。	A		
事業概要	当初工期	H11~H17	費用対効果(当初時)	1.27	事業費(千円)	財源内訳(千円)				④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価		
	最終工期	H11~H21	費用対効果(評価時)	1.12	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源				A		
	当初計画内容(主な工種)	農業用排水 L=12,582m 農業集落道 L=2,931m	農道 L=13,014m 農村公園 A=25,000m ²	2,310,000	1,270,500	346,500		693,000	農道、用水路等の整備により「施設の維持管理が容易になった」、「利便性、安全性が向上した」等、事業の必要性について地元から高い評価を得ている。また、事業で整備された施設を活用した継続的な地域活性化の取り組みが必要であることが認識されている。						
	最終事業実績(主な工種)	農業用排水 L=14,299m 農業集落道 L=2,579m	農道 L=11,616m 農村公園 A=24,200m ²	1,845,000	1,014,750	276,750		553,500	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)		評価				
事業期間の延長、短縮理由と分析	事業期間の延長理由:予算割当額が抑制されたことに伴う実施期間の延長										⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	生産基盤の整備による農業の効率化とともに、地元住民の生活環境の改善が図られた。また、農村公園等の施設整備により隣接する農産物直売所等の消費拡大につながっている。		B	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	事業費の縮減理由:詳細設計に伴う整備断面の見直し等による事業費の減										改善措置の必要性	特になし			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○用排水路の改修により用水不足が解消され、また雨水等の排水を速やかに流下させることで大雨時の災害防止、水管理の合理化が図られ、営農改善が図られた。</p> <p>○農道整備により機械の導入及び農作物輸送の効率化が可能となり、農作物の荷傷み防止、維持管理費及び走行費用の節減などにより、営農の安定化が図られた。</p> <p>○集落道路の整備により、利便性が向上したとともに、安心した交通が可能となり、また観光地等に来訪者の安心、安全な通行が可能となった。</p> <p>○農村公園や体験農園、活性化施設(1期対策で整備)等を活用した、農業と観光が一体化したグリーンツーリズムなど都市と農村の交流が展開されている。</p>										A	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	地域代表者からの聴き取り結果から、本事業の必要性については高く評価されており、継続した事業実施が望まれている。地理・地形的条件が厳しい中山間地域の農業農村の維持と活性化を図るためには、農業生産基盤と生活環境基盤の総合的な整備が不可欠であり、今後も中山間地域における総合整備の取り組みを継続的に実施していく必要がある。また今後は多面的機能支払事業等を活用した施設の継続的な維持管理も期待される。	
	間接的効果(定量的・定性的)	○本地域において、希少種が生息していることが確認され、希少生物の保護や水質の改善等への意識が高まった。										部意見		農業基盤の整備により、安定した用水供給と農作業の省力化が図られた。また、定住環境の向上や地域の活性化にも貢献しており、事業の目的を達成している。	
										行政改革課意見	農業用水の安定供給や集落道等の利便性の向上が図られ、事業の目的を達成している。				